

総会報告

1990年2月3日 午後3～5時
於 弥生会館

第一部

1. 開会の挨拶 大橋会長
2. 前年度活動報告 (会計報告 別紙のとおり) 川勝, 藤本, 小笹, 岡本, (各委員長)
3. 会計監査報告 高木
4. 役員改選 別紙のとおり
5. 会長挨拶 大橋会長
6. 会則の改正 (第2条, 第8条,) 別紙のとおり
7. 東京支部設置について 現在、東京在住の会員が21名になり、支部として活動することになり、広谷支部長が選任された。
8. 会費の改定について 藤本
現在、年会費3千円であるが、郵送費その他物価高騰及び山岳会ニュース発行のため5千円にする案につき、全員一致で承認。
9. OCUSAについて 佐藤
体育系各部OB会の結束と親睦を図るための組織の結成に向け、山岳会も加入していくことになった。(会則 別紙のとおり)
10. 新山岳部長挨拶 依田教授
11. 学術隊の日程等について //
日程は別紙のとおり。
壮行会の予定 4月20日 午後6時
大阪国際交流センター
(谷町8丁目)
12. 登山隊登頂報告 報告書の作成状況 佐藤, 八木,
ほぼ原稿は集まり、学術隊出発に合わせて発行の予定。

第二部 懇親会 5～7時

<出席者> 依田教授 神吉 山田(親英) 平野 泉 大橋 三島
池田(春次) 富村 池永 広谷 高木(健次) 服部 川勝 中田
門田 藤本 清原 浅部 小笹 久保田 山辻 岡本 佐々木 佐藤
島川 諏訪 奥田(寛) 小林(治俊) 広瀬 梅島 西村(正男)
福山 和田 武部 小倉 八木 小松 矢倉 尾形 下田 三木
[会友] 岡本(正人)

平成2年2月2日

大阪市大山岳会
会計 藤本 勇



大阪市制100周年記念
日中友好学術登山隊支出明細表
(中間報告)

	総費用	登山隊	学術隊
1. 昭和63年3月までの準備費	1,009,038	1,009,038	0
2. 渡航費	3,073,700	3,073,700	0
3. 装備費	5,786,426	4,753,513	1,032,913
4. 食糧費	330,315	322,815	7,500
5. 印刷・製本費	964,674	564,674	400,000
6. 輸送・梱包費	878,306	870,306	8,000
7. 保険料	1,194,470	1,194,470	0
8. 登山料(登録料)	1,860,650	1,860,650	0
9. 滞在費	23,022,932	23,022,932	0
10. 通信費	693,011	687,628	5,383
11. 渉外・接待費	2,244,632	1,767,728	476,904
12. 壮行会・祝賀会	154,140	154,140	0
13. 学術隊経費	560,341	0	560,341
14. 写真費	766,597	766,597	0
15. 雑費	824,981	824,981	0
16. 報告書作成費			
合計	43,364,213	40,873,172	2,491,041

大阪市立大学山岳会会則

<改正条項>

第 2 条（事務所） 本会の事務所は、大阪市北区西天満 4－6－19

北ビル 2 号館 304 号 島川法律事務所内に置き、必要な場所に支部を置くことが出来る。

第 8 条（委員） 委員は次のとおりとし、会務を分担する。

- イ）総務委員
- ロ）企画運営委員
- ハ）会計委員
- ニ）山岳部指導委員

<旧条項>

第 2 条（事務所） 本会の事務所は、大阪市北区西天満4-6-19北ビル2号館304号

島川法律事務所内に置く。

第 8 条（委員） 委員は次のとおりとし、会務を分担する。

- イ）企画運営委員
- ロ）会計委員
- ハ）庶務委員
- ニ）山岳部指導委員

OCUSA (大阪市立大学スポーツ・アソシエーション) 会則 (案)

制定 平成2年 月 日

施行 平成2年 月 日

第1章 総 則

(目 的)

第1条 本会は、大阪市立大学におけるスポーツの振興と発展のため物心両面の援助を図るとともに、体育系各部OB会の結束と相互の親睦を図り、母校の発展と充実に寄与することを目的とする。

(名 称)

第2条 本会は、^{と称し、法人}OCUSA(大阪市立大学スポーツ・アソシエーション)という。

(事 業)

第3条 本会は、第1条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) スポーツ振興及びスポーツ施設の充実に対する援助
- (2) 体育行事に対する援助
- (3) 会員相互の親睦会の開催
- (4) その他本会の目的達成のために必要な事業

(事務局)

第4条 本会事務局は、大阪市立大学(体育会)内におく。

第2章 会 員

(会員の種類)

第5条 本会の会員は、次の2種とする。

- (1) 正 会 員
- (2) 特別会員

(会員の資格)

第6条 本会会員の資格は、次のとおりとする。

- (1) 正 会 員 大阪市立大学体育系各部のOB会に所属する者
- (2) 特別会員 理事会が特に認めた者 ^{フチカントク 名士}

(会 費)

第7条 各部OB会は、会費を納めなければならない。会費の額は、理事会で定める。

運営費/各部一率 30,000~50,000

大阪市制 1 0 0 周年記念

大阪市立大学

日中友好学術登山隊

1 9 9 0

学術調査計画書

西藏南部高地の自然と生活

NATURE AND LIFE
IN
SOUTH TIBET HIGHLANDS

大阪市立大学理学部植物生態学研究室

1 9 8 9 ・ 1 2 ・ 5

大阪市制100周年記念
大阪市立大学日中友好学術登山隊・学術隊

趣 旨

大阪市立大学は、大阪市制100周年記念事業の一環として、中国西藏自治区に日中友好学術登山隊を派遣することになった。本冊子は、その学術調査の概要を示すものである。

この学術調査は、中国登山協会、中国科学院地質研究所の主導のもと、西藏登山協会、西藏自治区政府等の協力をえて、中国科学院植物研究所および大阪市立大学理学部植物生態学研究室が中心となって行われる中日共同学術研究である。従って、日本側は中国側の各関係組織・機関と緊密な連絡を取りつつ、研究の内容等を確定していく必要がある。

学術調査の主要対象が植物であるので、研究期間は植物の成育期間である夏季（雨季）が適当であり、登山期間と同時に学術調査を行うことは不可能である。

学術調査隊の主要調査地域は卓奥友山麓地域で、主要調査対象は高地植生の生理生態学的研究と、その地域の人間の生活をも含めた景観生態学的研究である。調査経路は、中日調査隊員の健康管理（主として高度順化）の必要上、また、西藏高原南部の植生配列の概要をつかみ、主要調査対象である高地植生の位置付けをより正確に行うため、成都から拉薩までを陸路入る。

本研究の成果は、関連する国際誌、国際学会に日中科学者の連名で発表すると同時に、1990年に大阪において開催される「花と緑の万国博覧会」に於いて、展示及び国際 Symposium を行う予定である。

なお、調査は中国側の事情により1990年5月より7月までに延期された。

研究組織と研究担当課題

学術隊長 依田 恭二 大阪市立大学理学部 教授
研究総括 高地の地形・植生と微気象条件
極限環境下での農村の生活と自然との調和
学術隊員 神崎 護 大阪市立大学理学部 助手
自然植生の垂直分布、高地植生の成立機構
下田 勝久 大阪市立大学理学部 大学院
極限環境下での植物の生活
報道隊員 斎藤清明 毎日新聞社会部兼科学部記者

中国側学術隊員 3名

郎 階永 中国科学院植物研究所 副研究員
西藏南部の植物分類地理学的研究
孫 世洲 中国科学院植物研究所 副研究員
高山植生の種構成と種生態に関する研究
方 精雲 中国科学院生態環境研究中心 所員
環境条件と植生との関係
連絡官 鄭 錫瀾 中国科学院地質研究所 副教授
通訳 方 精雲 (兼任)
料理人 1名

学術研究アドバイザー

吉良 龍夫 大阪市立大学名誉教授 滋賀県立びわ湖研究所長
(植物生態学)
藤田 和夫 大阪市立大学名誉教授 帝塚山大学教授(地質・地形学)
川喜田二郎 元大阪市立大学教授(人文科学)

研究地域、研究課題、期間および目的

研究地域： 四光峯北部高原地域、亜東・樟木付近の低地、及び、
拉薩より四光峯山麓に至る経路沿い地域
成都より拉薩に至る川蔵公路沿いの地域

研究課題： 西藏南部高地の自然と生活

1. 高地の地形・植生と気象・微気象条件
2. 自然植生の垂直分布と環境条件
3. 高地植生の成立機構
4. 極限環境下での植物の生活
5. 植物分類地理学的研究
6. 極限環境下の人間生活と自然との調和——景観形成

研究期間： 1990年5月より7月の間の90日間

調査経路は西藏公路における学術調査の実施が許可
になるかならないか判明した時点で決定する。

A案（川蔵公路—西藏南部高地）

B案（四川省西部—西藏東部—西藏南部高地）